

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和7年11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsvyCd=0190401182-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で入居者様が生き生きと過ごせるように、話し合い、役割を持ち活動したり、元気に身体を動かしたり、美味しくお食事が摂れるようにお声掛けをし、笑顔や大きな笑い声、楽しい会話がはずんでいる施設です。何事にも利用者様中心で考え、利用者様はもちろん、ご家族にも八番館で生活できて良かったと思ってもらえるように職員一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に優れた西野平和地区にある2階建てユニットと増築された平屋建てユニットを合わせて2ユニット18名が暮らす事業所である。事業所内にはキャブアートや数々の利用者の作品が掲示してあり暖かな雰囲気を感じられる。共用空間や居室は清掃が行き届き、エアコンのあるリビングに利用者が集い、午前と午後のアクティビティを楽しんでいる。法人は市内で複数の介護事業を展開しており、職員は事業所内の研修の他にも自ら進んで法人のオンライン研修に参加し介護力を高めている。職員の良質な介護で利用者が積極的に自分らしい生活を送っていることや、詳細に連絡がくことに家族からは安心の声が聞かれる。排泄面においては職員2名での介助が必要な利用者もいるが、日中帯は利用者全員がトイレで排泄ができるように支援をしている。要介護度が高くなった場合の終末期支援にも対応しており、職員は経験を重ね家族のように寄り添い最期まで心地よく過ごせるよう支援をしている。ボランティアの訪問でフラダンスを楽しんだり、親族の面会や信仰を共にする方の訪問もあり、自宅と変わらぬ落ち着いた暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に法人の理念である「良い人間関係なくして、よいケアはできない」をモットーに、職員同士でその都度協力、連携し、業務に取り組んでいる。	事業所の理念の「良い人間関係なくして良いケアはできない」と3項目の運営方針を職員が共有し、終の棲家として自分らしく自由に暮らせるよう支援をしている。利用者や家族へ契約時に理念の説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域と繋がれるようにしている。	町内会の広報誌から地域の情報を収集している。リサイクル活動に事業所の資源を提供している。地域のボランティアに演芸を披露してもらい、フラダンスサークルの訪問もある。近隣の住民と挨拶を交わし、花壇を見せてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、ご家族様や包括支援センターの職員様も交えて、施設内の報告伝えている。またインフルエンザノロ等流行時期には注意喚起を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの取り組みやご家族様からのご意見をいただいた内容については、職員と共有し、サービス向上に活かしている。	会議は地域包括支援センター職員、両ユニットの利用者家族が参加して利用者と職員の状況、事故報告、外部評価結果、感染症等を報告し、地域包括支援センターからの情報ももらっている。議事録は参加できなかった家族へ送付している。	町内関係者(町内役員及び民生委員)の参加を促す事が望まれる。また、会議での報告には災害訓練や職員の研修状況も盛り込むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係と事故報告するなど、連携を図るようにしている。	電子申請による入居状況等調査票、事故報告や保護課の調査に協力をしている。アンケート類を行政担当者へ提出する際に確認の連絡をするなど協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は3カ月に1回、勉強会を年2回行い、職員へ周知、理解を深めている。	身体拘束廃止に関する指針を基に身体拘束廃止委員会を3か月ごとに開催している。それらに係わる研修では指針の確認やスピーチロックについて学び、職員全員が研修報告書を提出し身体拘束をする必要のない介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を定期的に行い3カ月、勉強会を年2回行い、職員へ周知、理解を深めている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にはその都度疑問点等を確認し、きちんと理解、納得した上で契約の締結をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご家族様や包括支援センターの職員様から意見や要望をお聞きし、事業所運営に繁栄させている。	家族から要望を聞き、連絡ノートに記録し職員が情報を共有している。歩行器を利用している利用者の歩きたいとの要望を検討し、転倒の恐れがあるため家族へ実際の様子を見てもらい、福祉用具の計画をするなど利用者と家族の意見を尊重している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやモニタリングで職員の意見や提案を聞き、より良い施設になるように反映出来るように取り組んでいる。	管理者との面談やミーティングで個別に意見を聞いている。日々の業務でも提案しやすい環境にあり、意見を取り入れたことで業務が改善されている。職員の希望休や有給休暇は取得できている。サービス残業もないため働きやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し、職員個人の取り組みや頑張りを評価し、個々の課題に対してきちんと取り組める体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人を中心にして、新人職員や中間管理職研修を行なうとともに、毎月テーマ別で研修が組まれているので、色々な職員が参加できる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の介護職員や介護支援専門員、管理者、医師等定期的に集まり、情報交換や認知症の人に対してのアプローチの方法を学んでいる。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人様と面会し、身体状況や現在のお困りごと、不安な事をお聞きし、少しでも安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時には施設内の案内や、事業の取り組み、費用等をきちんと説明し、不安なく入居出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するまでの生活をご家族やご本人様からきちんとお話しを聴き、必要とされる支援をお伝えし、納得されてから提供するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員都合ではなく、ご本人様のペースに合わせ、他入居者様や職員と一緒に生活出来るように支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様には個別のハート便をお送りし、2か月に1回ホームだよりとして、ご家族様に生活状況をお伝えさせていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様をはじめ、ご友人等面会制限なく過ごしていただいている。また昔話や歌や映像を通じて、思い出を忘れないように声掛け、対応をしている。	家族や宗教を共にする人が面会に訪れた時は居室で落ち着いて話が出来よう支援をしている。妹宅へ外泊したり、家族と散歩に出かけるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、お話しやレクを行なえるように座席を変更をしたり、必要時には位置をずらしたり、また職員も一緒に取り組む事もしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退去後、何かあったらいつでもご連絡くださいとお伝えし、安心して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居様と平日頃の会話を通じてご希望や意向に耳を傾けるように努力している。	フェイスシートや暮らしの情報シートを毎年更新している。ほぼ全ての利用者が希望を表すことが出来るため、職員が気づきを連絡ノートに記録し、望む暮らしが継続できるよう支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはもちろん、その都度ご家族様からどのような生活をされていたのかお聞きし、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族だけではなく、ご本人様にもお聞きし、状況を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度モニタリングを開催し、ご本人やご家族の意向を職員間で共有し、介護計画に活かしている。	担当職員がモニタリングしたものを、全ての職員が利用者の状況、ニーズ、課題を再度検討している。計画作成担当者が利用者や家族の意見を確認し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	自分の主観ではなく、誰が見てもわかりやすく5W1Hを意識し、共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも対応できるように職員間で情報共有し、色々なニーズに沿えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回地域の方を交えての会議を行い、この地域で安全な生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月2回あり、それ以外にも24時間看護師と連絡体制を整えている。必要時相談できる環境も整えている。	隔週で協力医の往診を受けており、毎週看護師が健康管理を行っている。他科受診も事業所で同行受診をしており、適切に医療を受けられるよう支援をしている。歯科も訪問で診療が受けられる体制になっている。	

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回職員と看護師が情報共有し、必要時は相談、アドバイスを頂き、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはフェイスシートを活用し、情報共有を行いつつ、入院中は定期的に相談員の方やご家族様と連絡を取り合い、連携出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状況が重度化や終末期を察した際には、ご家族様、医者、管理者の3者が話し合いの場を設け、情報共有、連携できる体制を整えている。	契約時に「重度化対応に関する指針」を取り交わし同意を得ている。本人と家族の希望があれば、穏やかに天寿を全うできるよう、職員が優しく寄り添い支えている。職員は看取りの経験を次につなげるようデスカンファレンスをして経験を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにおいて、AEDの使用方法、急変時の対応(喉つまり等)の勉強会を実施し、職員がいつでも確認出来るように掲示もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害マニュアルを作成し、緊急時の連絡体制等を整備している。定期的に訓練も行っている。	今年度は7月にBCPIに基づく非常災害訓練としてハザードマップと防災ハンドブックを使用した研修を行った。9月に夜間帯の火災訓練を行っており、各種の災害備蓄品を用意してある。	BCPIに基づいた非常災害の訓練の実施、家族へ緊急避難場所の周知、近隣への災害時の応援体制を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの生き立ちや人格を尊重した言葉や対応をしている。	管理者が認知症の利用者への対応について、状況に応じた支援方法を職員へ丁寧に説明し、日々の介護で利用者の人格を尊重した関わりをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が何を言いたいのか、どうしたいのかをうまく表現できるように、声掛け、ジェスチャー等で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	否定はせず、その人らしい生活が出来るように、傾聴の姿勢を意識し、支援させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自身で着たい服を選べるように工夫したり、声掛けをしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はBGMを流し、職員と入居者が一緒に食事をしながら会話を楽しんでいる。食後の食器拭きも入居者の調子に合わせて、出来る範囲でお手伝いしていただいている。	食事中はオルゴールのBGMやラジオを流し、落ち着いた雰囲気ですら食事を楽しめる環境を整えている。また、プランターで育てたトマトを収穫し提供するなど、楽しみとなる食事支援も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量、水分量を確認し記録している。個々に合わせて提供している飲み物も工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い実施している。入居者に合わせ、必要時はお手伝いさせていただいている。訪問歯科の診察も定期的に受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを必ず行い、排泄パターンを把握している。モニタリング等で情報共有し、職員で一人一人トイレの声掛けのタイミングやオムツ等検討している。	総合記録シートで水分摂取量と排便状況を継続的に確認し、必要な支援に役立てている。記録や声かけの際にはプライバシーに十分配慮し、日中は全利用者がトイレで排泄できるよう自立支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行ない、-3日目まで下剤等を使用している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	混乱しないように入浴日を決め、週2回入浴剤を使用しリラックスして入浴できるように努めています。	入浴は週2回、午前を基本としているが、体調や希望に応じて午後へ変更するなど柔軟に対応している。やむを得ず異性介助となる場面でも、声かけや目線配慮等により尊厳を守り、安心して入浴を楽しめる支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人に合わせて、午前午後居室にて休んでもらっている。また夜間の就寝時間も一人一人希望に沿えるように対応させていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服薬の服薬方法や効果を理解し、主治医と連携し、ご入居者に合わせ、錠剤、もしくは粉薬を選択している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	映像を見るだけでなく、職員と一緒に体操を行なう、作品作りに取り組んでいる。			

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気温によって、事業所の周りを散歩したり、ご本人様から外出の希望があった場合は、ご家族様と調整して外出出来るように支援させていただいている。	利用者の身体状況により全員での外出は難しいものの、施設周辺の散歩や近隣の花壇鑑賞など、少人数でも無理なく楽しめる外出機会を提供している。また、通院時には桜並木の川沿いを通るなど、季節を感じられる環境に触れる支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理が難しく、職員で管理している。必要な物を買う際はご家族に確認し、支出用途を明確に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から連絡したいと報告された場合は、ご家族様に連絡させていただいている。手紙を書ける利用者はいない為行っていません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、季節を感じれる装飾を意識しています。	共用空間にはエアコンを設置し、適切な室温管理により快適に過ごせる環境を整えている。また外出機会に限りがある中でも季節感を味わえるよう、クリスマスツリーや壁面装飾を行っている。さらに利用者と制作したキャップアートも掲示し、温かみと居心地のよい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりの為、ソファの位置や事業所内の装飾を工夫し、ご入居様同士や職員とのコミュニケーションがとれる空間を意識している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具持ち込んでいただき、ご自宅での生活に近い空間づくりをご家族協力のもと行っています。	各居室にはパネルヒーターまたはガスヒーターを設置し、冬季でも安定した室温で快適に過ごせる環境を整えている。また、介護用ベッドや垂直型手すりなどの福祉用具は、入居後に必要となった際には法人が購入し適切に活用できる体制を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない廊下やトイレや居室に行く際、わかりやすいように貼り紙で工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和7年11月20日	評価結果市町村受理日	令和7年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で入居者様が生き生きと過ごせるように、話し合い、役割を持ち活動したり、元気に身体を動かしたり、美味しくお食事が摂れるようにお声掛けをし、笑顔や大きな笑い声、楽しい会話がはずんでいる施設です。何事にも利用者様中心で考え、利用者様はもちろん、ご家族にも八番館で生活できて良かったと思ってもらえるように職員一同頑張っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=0190401182-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に法人の理念である「良い人間関係なくして、よいケアはできない」をモットーに、職員同士でその都度協力、連携し、業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域と繋がれるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、ご家族様や包括支援センターの職員様も交えて、施設内の報告伝えている。またインフルエンザノロ等流行時期には注意喚起を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。ホームの取り組みやご家族様からのご意見をいただいた内容については、職員と共有し、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係と事故報告するなど、連携を図るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は3カ月に1回、勉強会を年2回行い、職員へ周知、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を定期的に行い3カ月、勉強会を年2回行い、職員へ周知、理解を深めている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にはその都度疑問点等を確認し、きちんと理解、納得した上で契約の締結をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご家族様や包括支援センターの職員様から意見や要望をお聞きし、事業所運営に繁栄させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやモニタリングで職員の意見や提案を聞き、より良い施設になるように反映出来るように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し、職員個人の取り組みや頑張りを評価し、個々の課題に対してきちんと取り組める体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人を中心にして、新人職員や中間管理職研修を行なうとともに、毎月テーマ別で研修が組まれているので、色々な職員が参加できる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の介護職員や介護支援専門員、管理者、医師等定期的に集まり、情報交換や認知症の人に対してのアプローチの方法を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人様と面会し、身体状況や現在のお困りごと、不安な事をお聞きし、少しでも安心して頂けるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時には施設内の案内や、事業の取り組み、費用等をきちんと説明し、不安なく入居出来るように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するまでの生活をご家族やご本人様からきちんとお話しを聴き、必要とされる支援をお伝えし、納得されてから提供するようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員都合ではなく、ご本人様のペースに合わせ、他入居者様や職員と一緒に生活出来るように支援させて頂いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様には個別のハート便をお送りし、2か月に1回ホームだよりとして、ご家族様に生活状況をお伝えさせていただいている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様をはじめ、ご友人等面会制限なく過ごしていただいている。昔の歌謡曲を皆さんで歌ったり、食事時のBGMも安心するように意識しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自立した利用者様もいて、他の利用者様と良い関係性を保てるように、職員が間に入って支援させていただいている。			

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退去後、何かあったらいつでもご連絡くださいとお伝えし、安心して頂けるように努めています。退去後に連絡が来た際はご家族様の立場に立ち、相談、支援をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居様と平日頃の会話を通じてご希望や意向は職員で共有し、対応出来るよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族様からどのような生活をされていたのかお聞きし、状況把握に努めている。また入居後にもご本人様から会話の中から情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士情報共有し、利用者様一人一人把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度モニタリングを開催し、ご本人やご家族の意向を職員間で共有し、介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも見逃すのではなく、申し送りや記録に書いて、情報共有し、プランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者さまの様子や行動を記録に残し、職員間で共有するとともに、一人一人ニーズに沿えるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回地域の方を交えての会議を行い、この地域で安全な生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月2回あり、それ以外にも24時間看護師と連絡体制を整えている。必要時相談できる環境も整えている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等あれば、記録に残すのはもちろん、往診の際や週1回の看護師訪問の際に情報共有し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはフェイスシートを活用し、情報共有を行いつつ、入院中は定期的に相談員の方やご家族様と連絡を取り合い、連携出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的なモニタリングだけではなく、随時職員間で集まり、ご家族の意向も含め情報共有し、職員一同で支援させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにおいて、AEDの使用方法、急変時の対応(喉つまり等)の勉強会を実施し、職員がいつでも確認が出来るようにプリントを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を実施し、連絡体制だったり、避難方法を身につけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを守り、ここや状況に合わせた声かけを意識し、実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気づくりを意識し、気を使うことなく、職員に対し、色々話をしてくれていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日状況は違うので、その時の状況に合わせて、声掛け対応をさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自身で着たい服を選べるように声かけをさせていただいております。選ぶことが困難な場合は、その日の天気や気温によって職員が選んで着ていただいております。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつのご時間にご自身で好きな物を選んでいただいたり、後片付けのお手伝いをさせていただいてます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	気分が進まない時は違う飲み物を提供したり、声掛けを工夫し、摂取量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご本人様の力に応じた声かけや支援をさせていただいております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の排泄パターンの把握に努め、ご本人様一人一人に合わせた支援をさせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保はもちろん、排便状況の把握やパターンを理解し、必要時は下剤を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時にはリラックスできるように、入浴環境を整えたり、声掛けも意識し取り組んでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日同じではなく、その日の体調に合わせて、声掛けし、お休みしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報や服薬方法を理解し、職員全員が同じ方法で対応できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	クイズや風船バレー、調理レクなど、利用者様の出来る事、やりたいことを聞いて、出来る限り希望に沿えるようにしています。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	プランターで育てていたトマトの水やりなど、天気が良い日は、職員付き添って、事業所近辺を散歩して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理が難しく、職員で管理している。必要な物を買う際はご家族に確認し、支出用途を明確に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の状況に合わせ、電話であったり、お手紙などで交流が持てるように対応させていただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日決められた時間に掃除を行い、消毒も午前午後と必ず行い、少し手も事業所内で季節を感じれるように、装飾を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりの為、ソファの位置や事業所内の装飾を工夫し、ご入居様同士や職員とのコミュニケーションがとれる空間を意識している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具持ち込んでいただき、ご自宅での生活に近い空間づくりをご家族協力のもと行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない廊下やトイレや居室に行く際、わかりやすいように折り紙などで作成した作品などを入口に貼ってわかりやすいように工夫しています。		